

情報を伝える 7つのポイント

- 1 文字の大きさを十分に大きくします。
- 2 ふりがなやひらがなを表記します。
- 3 点字・音声読み上げテキストを提供します。
- 4 通訳・翻訳を行います。(外国語、手話、要約筆記)
- 5 写真やイラスト、ピクトグラムを入れて分かりやすくします。
- 6 色だけで区別せず、模様や手触り等、デザインでも差をつけます。
- 7 その場で必要な文章を読み上げる対応をします。



ポイントをふまえて、どう対応すれば良いかを本人に聞いてみよう！

視覚障害者向けナビゲーション

目の不自由な人の外出支援のため、スマートフォンを使った音声ガイド付き案内システムが開発されています。実際に、公共施設等や地下鉄で導入されているものもあります。

正面にはバリアフリートイレがあります。バリアフリートイレの右側には男子トイレ、左側には女子トイレがあります。



点字・浮き出し文字

目の不自由な人でも、トイレの個室にあるボタンやエレベーターの階数ボタン等が触って区別できるように、点字や浮き出し文字を使う工夫が必要です。



色の組み合わせ

色弱の人にも見えやすい色の組み合わせを選ぶことで、みんなにとって見えやすくなります。同じ赤でも、朱色に少し近づけるだけで判別しやすくなります。



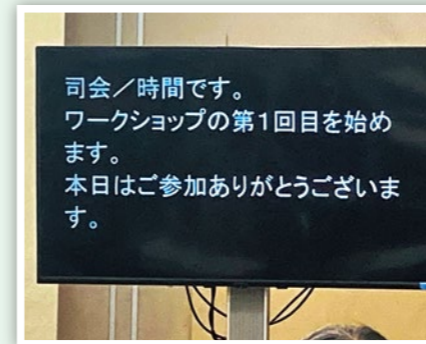
出典：新宿区ユニバーサルデザインガイドブックシリーズ8

音声読み上げテキスト

目が見えない人の中には、パソコンやスマートフォンを使って文字を音声で読み上げ、内容を確認する人もいます。そのため、読み上げない表や図、写真については、内容を文字で説明したテキストデータを提供し読み上げに対応します。

要約筆記

話している内容をその場で要約し、文字化します。パソコンでのキーボード入力や手で書く方法等があります。世田谷区UDスタイルワークショップでも、要約筆記を取り入れています。



▲会場全体で読む方法



▲手元で読む方法

音声の文字化

スマートフォンのアプリを使って、その場で話している言葉を文字にして伝えることができます。外国語に翻訳できるものもあります。



手話通訳

手話は、手や指の動きだけではなく、表情や口型等も使って伝える言語です。手話通訳は、話し言葉を耳の不自由な人に手話で伝えるとともに、手話の内容を聴者(聞こえる人)に伝えます。



実際のワークショップではこんな風に情報を伝えているよ！



コラム やさしい日本語

「やさしい日本語」とは、普通に使っている日本語よりも簡単で、外国人や言葉の理解が苦手な人にも分かりやすい日本語のことです。

1995年の阪神・淡路大震災をきっかけに、みんなが

災害発生時に適切な行動をとれるように考え出されたのが「やさしい日本語」の始まりです。災害時のみならず、平時の外国人への情報提供手段としても研究され、行政情報や生活情報、毎日のニュース発信等、全国的に様々な分野で取り組みが広がっています。

参考：東京都オリンピックパラリンピック準備局「やさしい日本語」について

<https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/multilingual/references/easyjpn.html>



情報
を伝える
取り組み

私たちが今からできること